

奥田善巳 個展と作品 レジューメ

1 基本的な内容

作家についての詳しい説明ではなく、奥田の線描絵画をヒントにして話を大きく広げ、絵画一般の線、あるいは見ることの不思議について述べ、その上で、奥田の芸術を捉える。

2 奥田善巳（1931～2011）について

1960年代は、ネオ・ダダやポップ・アートなどに影響を受けた作品を制作。若手のグループ〈位〉の創立メンバーのひとりとして活動も。

1970年代は、概念性の強いインスタレーション（空間芸術）やドローイングを発表。

1980年代以降、線描による絵画を制作。

3 線について

(1) 線の形成力

① ワシリー・カンディンスキー『点・線・面』（1926年）

② パウル・クレー『造形思考』（1956年 没後の出版）

線についての基本的な内容は、『教育的スケッチブック』（1925年）と同じ。

③ シュタイナー学校における「フォルメン線描」

ルドルフ・シュターナー（1867-1925）の教えに基づく。

(2) 現代美術の中の線（主に特徴的な線の例）

① ジャクソン・ポロックのドリッピング・ポアリング

② 斎藤重義のドリル絵画

③ 浜田知明のエッチング

③ 白髪一雄のフット・ペインティング

④ 中西夏之の竿による線

⑤ 法貴信也の硬質な線

⑥ 奥田善巳のドローイング（輪郭のないリング）

4 見ることの不思議

(1) 網膜

桿体細胞と錐体細胞（3つの波長）、オン・オフ組織、盲点など

(2) 視覚野

両目からの受信の仕方、視覚野のモジュール性、遠近感など

(3) 視覚と絵画

5 奥田善巳の〈CO〉シリーズ

(1) 基本的な特徴

(2) シリーズの展開から分かること